



2021年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.6 刈取り・搬入編

〔撮影日：2021年9月21日～9月27日〕 稲穂の色も黄金色になり、待ちに待った収穫の時期となりました。今年は長雨が続き大変な年となりましたが、生産者さんは天候を見ながら順調に刈取りを進めています。刈り取られた日本晴は、次々とカントリーに運ばれています。

9月の連休では、コンバインで忙しそうに刈取り作業をする生産者さんの姿が蒲生地域のあちこちで見られました。9月いっぱいまで刈取りを終える方が多く、10月に入るとほとんどの地域が終えようとしています。

収穫された籾（もみ）は、900kg入る**フレキシブル・コンテナ（フレコン）**に詰められ、カントリーエレベーターへ搬入されます。搬入された籾は、**トラックスケール**で計量後カントリー内に流し込まれ、乾燥機へと送られます。乾燥作業は、職員が24時間体制で交代し、均一に乾燥されるように調整しながら行います。乾燥後は、貯蔵され出荷前に籾すりして出荷されます。



蒲生地区にある各小学校では、食農教育の一環として、毎年春に田植えをして秋に稲刈りをします。新型コロナウイルス感染症の感染対策としてマスクを着用しての稲刈りでしたが、熱中症やけがもなく、晴天の下無事稲刈りを行うことができました。

各地域の生産者の方や職員が協力し、小学生に教えながら鎌で1株ずつ刈取っていきます。

子どもたちは積極的に稲刈りに挑戦し、藁で稲を縛る難しい作業もボランティアの方に教えてもらいながら頑張っていました。最後にコンバインでの刈取りを見学し、あっという間に田んぼ一面が刈られていく様子に驚いていました。

子どもたちには、この田んぼの学習を通じて食や農業の大切さ、楽しさを知ってもらえたらと思います。

